

区民ワークショップの提案 (第1次)

2002年11月28日
豊島区区民ワークショップ

豊島区長 高野之夫様

豊島区では、区民を主役とした新たな基本構想・基本計画の策定に向け、区の将来像やまちづくりの課題について、区民が創造性を発揮しながら主体的に議論し、基本構想・基本計画への提案を検討する場として、ワークショップが設置されました。

このワークショップは、公募等により、私ども区民 52 人が、施策分野ごとに3つのワークショップに分かれ、平成 14 年 10 月 7 日の第一回合同ワークショップを皮切りに議論を重ねてまいりました。平日の夜間開催ではありましたが、僅か 2 か月の間に開催回数は各ワークショップそれぞれ 5 回を数えました。このたびは、基本構想への提案として報告いたします。

高野区長におかれましては、この提案を新たな基本構想を策定するうえで、区民からの意見として受けとめていただき、基本構想へ反映させられるよう「豊島区基本構想審議会」(会長 森田朗・東京大学教授)に提出願います。

豊島区民ワークショップメンバー一同

基本構想審議会への提言

1. 提言の背景（課題認識）

「健康」に係る課題

健康づくりは一人ひとりが自主的に管理することが必要です。
安心できる医療の仕組みが必要です。

年齢や性別に関わりなく、日常的に健康・体力づくりへの関心をもつことが必要であるが区民の健康に対する意識は高いといえない。また、高齢社会を目前にした地域の在宅医療支援の仕組みなど機能しておらず、日常的な健康づくり活動とともに、医療環境についても見直しが必要である。

「福祉」に係る課題

高齢者や障害者の体力・知力を活かす場・機会を設け、社会参加を促すことが必要です。
介護する方・される方の状況に応じた多様な介護の仕組みが必要です。

働く意欲や社会参加の意識が高い高齢者や障害者に対する活動の場や情報が不足していることが、個人の自立的な生活支援を阻害することになっている。また、高齢者福祉については、介護保険制度の枠外となる高齢者支援などを含め、介護の多様性に応じた支援体制についても整備が必要である。

「子ども家庭」に係る課題

子育ての精神的・経済的負担を軽減していくことが必要です。
子育てを近隣や学校、地域など様々な連携と協力の中で支援することが必要です。
子ども健全で安全な遊びを提供し、またやすらぎを与える場が必要です。

子育ての負担を軽減するために、近隣や地域などが子育てを補完する仕組みを持つことが必要である。また、子どもの健全な成育を支援するために、異年齢・高齢者などとのふれあいによる遊びや体験、安らぎを与える場の整備が必要である。

第1分野全体に係わる課題

子ども・高齢者、男・女、障害のある・なしに関わりなく、個人の人権が守られることが必要です。
共に支え合う地域づくりのためには、垣根のない“ひと”と“人”の交流が必要です。

年齢や性別、障害の有無などによらず、個人の人権が尊重されることが基本である。また、介護や子育てを支援する地域づくりのためには、地域に住まうあらゆる人々のつながりが基本となることから、交流の促進やコミュニティづくりが必要となる。

2. 豊島区が目指すべき将来都市像とまちづくりの方向性

(1)「こころと身体が健康で安心した日常生活がおくれるまちをめざします。」

区民一人ひとりが、健康・体力づくりに積極的に参加し、健康を自主的に管理できる区民意識を醸成するとともに、心の健康づくりの取り組みを進める。また、家庭医や往診医などによる身近な医療環境づくりや医療機関間の連携などによる地域医療環境の整備を図る。

<まちづくりの方向性>

- * 健康づくりや体力づくり活動など予防医療への取り組みを展開する
- * 一人ひとりが自らの健康を自主的に管理できる区民意識を醸成する
- * 気軽に相談できる家庭医や往診医の普及と医療機関相互の連携による医療環境の整備を進める
- * 心の健康をつくるための生きがいづくりや、やすらぎの場づくりを進める

(2)「高齢者も障害のある人も個人の能力を発揮し、社会参加できるまちをめざします。」

高齢者や障害のある人が、個々の能力を発揮し、社会参加したり、働くことができる場や機会を提供するとともに、自立的に生活できるような仕組みをつくる。

<まちづくりの方向性>

- * 高齢者も障害のある人もない人も、全ての個人が能力を発揮し、働き・社会参加できる仕組みづくりを進める
- * 高齢者自身が学ぶだけでなく、高齢者のもつ知恵や知識を子どもに教え、共に学ぶ場や機会を提供する

(3)「人とひと・家庭・地域が互いに支え合う福祉のまちをめざします。」

高齢者や障害者のケアや介護については、受ける側の視点にたった多様な支援体制づくりを進める。また、高齢者や障害者のケアを支えるボランティアの参加を促進することが必要である。

<まちづくりの方向性>

- * 高齢者や障害者が可能な限り自立的に生活するために、区民だれでもがボランティアに参加できるような意識づくりを進める
- * 介護する人・される人を気遣い、支え合うことができる仕組みをつくる

(4)「子ども一人ひとりを慈しみ、家庭・地域が協力・協働で子育てに参加するまちをめざします。」

子どもは区民全体の宝であることを基本とし、子どもの人権を尊重した家庭・地域社会づくりを進める。また、子育ての責務を家庭のみならず、地域社会全体が共に担う意識をもって、子育てネットワークや子育て支援の人・場・情報の総合的支援体制をつくる。

<まちづくりの方向性>

- * 全ての年齢層の子どもにとって安全で安心できる遊び場づくりを進める
- * 高齢者のもつ知恵や知識を伝え、共に学び、共に遊べる拠点づくりを進める。
- * 子育てに関わりたい・関わられる人たちによる子育てネットワークづくりを進める
- * 子育てを支援する人・場・情報を整備し、社会全体子育て支援体制をつくる

(5)「一人ひとりの人権を尊重し、“ひと・人”が互いに認めあえるまちをめざします。」

子ども・高齢者、性別、障害者、国籍などによる差別がなく、全ての人の人権が尊重されるために、人権に係る学習機会を設けるなどによって、意識啓発を図ることが必要である。

<まちづくりの方向性>

- * 子どもの権利条約を遵守のための取り組みを進める
- * 性別や障害の有無、国籍などによる偏見をなくすための意識づくりにつとめる

(6)「年齢や障害、性別にかかわらず垣根のない交流があるまちをめざします。」

高齢者や障害者の地域ケア、子育ての地域支援などの基本であるコミュニティづくりのために、日常的な近隣づきあいや、顔のみえるコミュニケーションを促進し、また区民のあらゆる人が交流できる場や機会を整備していくことが必要である。

<まちづくりの方向性>

- * 年齢や障害、性別などに関わらず区民全てが垣根のない交流ができる施設や仕組みづくりを進める
- * 日常的な近隣づきあいや顔のみえるコミュニケーションを促す仕組みをつくる

豊島区の将来像～わたしたちはこんなまち - 豊島 - にしていきたい～
いつまでも住み続けたいまち～としま～

(1) 心と身体が健康で安心した日常生活がおくれるまちをめざします。

健康づくりや体力づくりのための催しに皆が参加できるまちでありたい。

一人ひとりが自分の健康を自主的に管理し・健康を維持できる区民でありたい。

身近な医院との信頼関係をつくり、気軽に相談したり、往診してもらえ家庭医がいるまちにしたい。

ところがやすらかになれるところの公園があるまちでありたい。(いやされる、生きがいがある...)

(2) 高齢者も障害のある人も、個人の能力を発揮し、社会参加できるまちをめざします。

生涯現役 - 働きたい体力と能力のある人が自分の能力を発揮して自己実現できるまちをつくりたい。

区民雑誌の発行や趣味の発表会などをつうじて、全ての区民が社会参加できるまちでありたい。

小学生・中学生に、高齢者のもつ知恵や知識を活用して、教え、共に学び、ともに遊べるまちでありたい。

空き教室など今ある施設を高齢者学校や世代を越えてふれあえる施設として活用したい。

自主的に健康管理ができる高齢者が、元気に社会参加しているまちでありたい。

障害のある人もない人も、等しく社会参加しているまちでありたい。

(3) 人とひと・家庭・地域が違いに支え合う福祉のまちをめざします。

高齢者や障害者などにやさしい気配りができる人・まちをつくりたい。

高齢者と障害者、子どもなどに手をさしのべ、助け合って暮らせるまちをつくりたい。

悩みをかかえたり、困っている人に手をさしのべられるまちでありたい(駆け込み寺設置)

介護などを地域や社会で、支え合おうという心がある地域をつくりたい。

(5) 一人ひとりの人権を尊重し、ひと・人が互いに認めあえるまちをめざします。

年齢や障害、国籍などに関わりなく、一人ひとりがみな大事にされているまちをつくりたい。

だれの発言でも耳を傾けてくれるまちでありたい。

区民だれもがいきいきと社会参画しているまちでありたい。

男性が地域活動に参加し、男女がともに地域づくりができるまちでありたい。

いじめがなく、子どもの個性が尊重され、一人ひとりの人権が尊重されるまちでありたい。

(6) 年齢や障害、性別などに係わらず、あらゆるひと・人が自然に交流できるまちづくりをめざします。

仮想空間のコミュニケーションだけでなく、人とひとの顔がみえるコミュニケーションできる関係をつくっていききたい。

隣近所・地域の人全員とあいさつが交わせる、日常的なつきあいのあるまちをつくりたい。

小さな子どもから、中高生、高齢者にいたるまで、あらゆる年代層にとって、ほっとできる居場所のあるまちをつくりたい。

気持ちよいあいさつが交わせる人間関係が築けるまちをつくりたい。

お互いの顔がみえ、近所づきあいができる小さなコミュニティがあるまちでありたい。

子ども・高齢者、障害のあるひと・ない人、全ての人がふれあいをもてる場がいたるところにあるまちをつくりたい。

区民みんながボランティアをするようなまちでありたい。

「向こう三軒両隣」が親しみをもって生活できる地域社会でありたい。

まつりや伝承あそびなど、歴史や文化、風土性大人から子どもに伝えていけるまちでありたい。

(4) 子ども一人ひとりを慈しみ、家庭・地域が協力・共働で子育て参加するまちをめざします。

大人がやさしく子どもを見守り、子どもたちが、がのびのび育つまちでありたい。

子どもたちが外で元気に遊びまわっている安心で安全なまちでありたい。

「しつけ」ができる大人・家庭・地域でありたい。

子育てに係わりたい・関わられる人と人をつなぐ身近な子育てネットワークをつくりたい。

子どもが心も身体もがのびのびさせて、安心して遊ぶことができるまちをつくりたい。

働く母親のための子育てを支援する人・場がたくさんあり、社会全体で子育てできるまちをつくりたい。

乳幼児が遊び・お母さんもリラックスできる公園や施設であふれるまちでありたい。

日本だけでなく地球上のあらゆるめぐまれな子どもを受け入れられる里親家庭がたくさんあるまちにしたい。

健康に係ること

健康づくりは一人ひとりが自主的に管理することが必要です。

健康づくりや体力づくり活動への参加に消極的だったり、自らの健康管理意識が低いと思います。

予防医療への取り組みが必要だと思います。

安心できる医療の仕組みが必要です。

家庭医や往診医などは、地域による格差があります。

信頼できる名医や病院など、利用者がわかるシステムがありません。

福祉に係る課題

高齢者・障害者の体力・知力を活かす場、社会参加を促すことが必要です。

シルバー人材センターの活用など高齢者の人材派遣の仕組みをもっと考えた方がよいと思います。

定年延長や再雇用などにより、働きたい人には働く場を用意する必要があります。

家に引きこもっている高齢者の方々の活動の場に参加してもらうことが必要だと思います。

元気お年よりの能力や力を活かしていないと思います。また、障害者の方の活用も不十分です。

高齢者自立生活の保持できることが重要だと思います。

高齢者同士の助け合いということも考えることが必要です。

高齢者の特技を見つけ、その能力を子どもとの交流などに活かすことが必要だと思います。

介護する方・される方の状況に応じた多様な介護の仕組みが必要です。

施設介護にボランティアの活躍を多く取り入れていくことが必要です。

介護の必要度合は多様です。介護認定外の人など、その度合に応じた多様な対応が必要だと思います。

区内には大学・専門学校と介護ボランティアなどを含めた連携が必要だと思います。

～わたしたちは今こんなことが問題だと思っています～ (問題・課題の整理)

子ども家庭のこと

子育ての精神的・経済的負担を軽減していくことが必要です。

子育てを支える人材を育てることが必要です。そのためには、元気な高齢者の活用も考えたのでしょうか。

第2子ができると川むこうにひっこすそうです。豊島区は子どもを育てるために負担が大きいことが問題です。

子どもを育てるために負担が大きいこととともに、情報提供の仕方など子育てを支える仕組みが弱いのが問題ということでしょうか。

子育てを支える人材という意味では、中学生や高校生にも、子育ての場に参加してもらうような機会があるとよいと思います。

子どもを生み・育てるためには若年層の金銭的・精神的負担を軽減することが必要です。

子育てを近隣や学校、地域など様々な連携と協力の中で支援することが必要です。

少子化で、小中学生が子育てを体験することがありません。命の大切さなどを知るためにも乳幼児と小中学生の交流機会が必要だと思います。

区内には大学・専門学校が多くありますが、地域との関わりがあまりないと思います。子育てボランティアなどを含めて連携が必要だと思います。

学校選択制になり、小学校を中心とした子ども保護者の輪が地域の中で崩れていくことを心配しています。

子どもに健全で安全な遊びを提供したり、安らぎを与える場を必要です。

乳幼児でも安全な遊び場が不足していること、また子育てママと子どもと一緒に、いつでも使える施設が必要だと思います。

中高生の居場所がなくなっていると思います。昼・夜限らず、中学生、高校生の居ることのできる施設が必要だと思います。

全体に関わること

子ども・高齢者、男・女、障害者のあるなしに関わりなく、個人の人権が守られることが必要です。

保育園、幼稚園、小・中学校での子どもの人権教育をしていくことが必要だと思います。

子どもの権利条約豊島版がないのが問題だと思います。

いじめや虐待などについても対策がどの程度あるのかわかりません。

共に支え合う地域づくりのためには、垣根のないひとと人との交流が必要です。

お年寄り子ども・青少年の交流が日常的に行われていないと思います。

人がたくさんいてもさみしいと感じる人がいるということは、コミュニケーションが足りないということだと思います。

地域活動を行う団体間交流や連携をすることが必要です。そのために、例えば施設や情報などが必要です。

行政サイドにも変わって頂きたいことがあります。

高齢者リストや要介護者リストを教えてもらえれば、その人たちを支援することができると思います。

民生・児童委員に今まで以上に活躍してほしいと思います。

区民の声を聞く目安箱がほしいと思います。

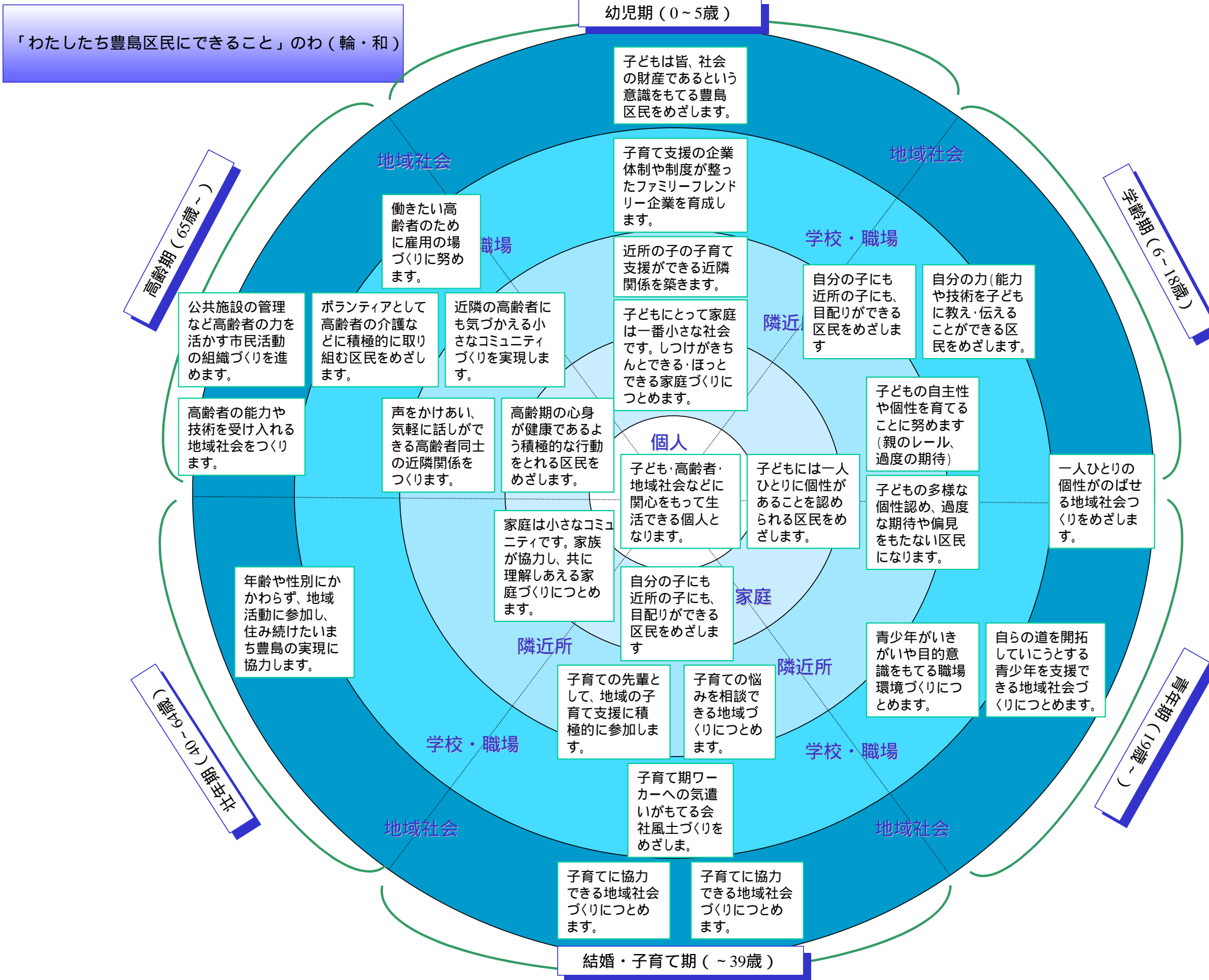
施設入所などの事務手続きの簡素化が必要です。

福祉施設において活躍する講師の技能や能力に対する対価が安いので講師料や指導料をアップすることが必要だと思います。

昔から住んでいるお年寄りの住宅に隣接してワンルームマンションが次々に建てられ、とても住心地が悪い街になりつつあります。住民の意思による規制はできないのでしょうか。

議会の審議を傍聴したいとおもっても平日・昼間で参加できません。夜・土日にできないでしょうか。

区財政の危機ということで、保育園の人員費補助が削減され保育園に入っていない親子への支援に十分力が入れにくい状況にあります。



基本構想審議会への提言

1. 提言の背景（課題認識）

「環境」に係る課題

豊島区にはみどりが少なく、身近な生活環境の中に自然とのふれあいやうるおいが不足している。また、みどりの大切さや循環型のまちづくりの必要性への意識はあるものの実践には結びついておらず、区内に残された貴重なみどりを最大限に活用することや、区民等と行政の連携による美しいまちづくりへの取り組みが不十分である。

「防災・まちづくり」に係る課題

豊島区は狭い道路が多く、交通安全や災害時の避難・消防活動など安全性確保の面で課題のある市街地が少なくない。しかし、既存の道路の拡幅や新たな道路の整備は困難で時間を要することから、既存道路を有効に活用することが必要である。また、防犯、防災の取り組みへの区民等の参加や区民等と行政との連携が不十分であり、災害に強い体制づくりと都市基盤整備が必要である。

「住民参加型のまちづくりへの転換」に係る課題

地方分権が進展する中で、豊島区においても、まちづくりへの区民の意識の高まりとニーズの多様化をふまえ、区民等がまちづくりの主役となる仕組みの確立が求められている。

2. 豊島区が目指すべき将来都市像とまちづくりの方向性

(1) 「みどりをネットワークさせるまち・豊島」

貴重なみどりを守り、できる限りふやしていくことを基本として、区民等がみどりの価値を再認識し、行政との連携のもと、みどりの拠点づくりと身近なみどりを増やす取り組みを進め、みどりがネットワークする循環型の美しいまちづくりを進める

<まちづくりの方向性>

- * 今あるみどりは原則として残し、身近なみどりをふやす
- * 区民等がみどりの価値を再認識する主体的な取り組みの仕組みづくりを進める
- * 資源の循環を通じた美しいまちづくりを進める
- * 行政による効果的なみどりの拠点づくりを進める

(2)「共生、安全、安心のまち・豊島」

道路の整備だけでなく、今ある道路を有効に活用する「みちづかい」を重視するとともに、災害に強い情報網や都市基盤の整備を進め、安心して暮らすことのできるまちづくりを進める。また、豊島区の「顔」である池袋の国際文化都市化を進める。さらに、パートナーシップづくりによる地域の防犯・防災機能を向上する。

<まちづくりの方向性>

- * 「みちづかい(既存道路の有効活用)」を重視した人間優先のまちづくりを進める
- * 災害に強い情報網の確立と都市基盤整備を進める
- * 明るい国際文化都市「池袋」をつくる
- * 防犯・防災のための地域のパートナーシップをつくる

(3)「区民と行政が共に考え、共につくるまち・豊島」

区民等がまちづくりの原案づくりから参加することにより、区民等のニーズをまちづくりにきめ細かく反映する。また、区民等と行政が共に推進することにより、区民等の意欲と能力を生かした豊かで個性的なまちづくりを進める。さらに、試行錯誤を可能とする事業推進の仕組みを導入することにより、着実にまちづくりを実行する。

<まちづくりの方向性>

- * 区民等がまちづくりの原案づくりから参加し、合意を形成する
- * 区民等と行政が共にまちづくりを推進する
- * 失敗を恐れずに試行錯誤しつつ着実にまちづくりを実行する

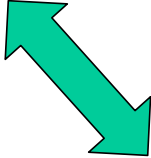
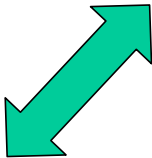
「環境、防災、まちづくり」に係る将来都市像とまちづくりの方向性

区民と行政が共に考え、共に作るまち・豊島

区民等がまちづくりの原案づくりから参加し、合意を形成する

区民等と行政が共にまちづくりを推進する

失敗を恐れずに試行錯誤しつつ着実にまちづくりを実行する



みどりをネットワークさせるまち・豊島

今あるみどりは原則として残し、身近なみどりをふやす

資源の循環を通じた美しいまちづくりを進める

区民等がみどりの価値を再認識する主体的な取り組みの仕組みづくりを進める

行政による効果的なみどりの拠点づくりを進める

共生、安全、安心のまち・豊島

「みちづかい(既存道路の有効活用)」を重視した人間優先のまちづくりを進める

明るい国際文化都市「池袋」をつくる

防犯・防災のための地域のパートナーシップをつくる

災害に強い情報網の確立と都市基盤整備を進める



「環境」の課題に関する論点

<目指すべき将来都市像>
今ある緑は原則として保全され、
身近な緑を育てる活動が活発に展開される都市

今ある緑は原則として保全することを方針として打ち出すべき

- 緑の基本計画では区全域が緑化重点地域に指定されている
- 既にある緑を守る、再評価する、すなわち再生がキーワードである
- 緑を守るための豊島区独自の条例が必要である
- 木の伐採について、規制は困難かもしれないが残す工夫が欲しい
- 緑を増やすためには土が表出している場所を増やすことが重要

緑の保護、育成は環境改善に向けた最優先課題

豊島区の緑は危機的な状況にある

豊島区の緑は現状維持も難しく「緑の緊急事態宣言」を出すべき

緑被率、一人あたり公園面積とも23区最下位であり改善が必要

近年の宅地造成により、緑のない街並みに変貌している。

環境全般の課題解決に向けて緑の保護、育成が重要である

豊島区には緑が少ない、緑は多様な課題に関わりがあり増やすべき

豊島区は住環境に課題が多い

水と緑を一体と捉えて、水辺を活用し、緑を増やすことは意義が高い

緑を守ることは地域環境を守り住環境を改善することにつながる

区民の意識を改革し、主体的に取り組む意欲、能力の育成と取り組みの仕組みづくりが必要

緑の大切さを区民一人ひとりが再認識することが必要である

街の価値を高める上で緑の整備が重要という意識の普及が必要

見慣れた街並みを再評価し、緑の価値を再認識することが重要

緑の衰退の状況について区民に情報を公開し、行政と区民が共有する

皆、緑の恩恵を受けているのに、緑に対する意識が低すぎる

区民が楽しみながら身近な緑を守り、育む仕組みづくりが重要である

皆が楽しんで取り組めるような仕組みを作ることが重要である

垂直面の緑化や屋上の緑化など、小さな緑を増やす工夫が重要

区内に区民農園を作るのが良い

樹医など、専門的な役割を果たせる人材を育成する体制も重要

区役所の屋上緑化のノウハウを民間にも公開すべきである。

今ある施設と区民の意欲を生かした環境教育の推進が必要である

子どもたちへの環境教育、緑教育が重要である

環境教育は既存の施設を有効活用すれば実行できる

外国における取り組み事例を研究し、情報を公開することが必要

環境教育に関心や意欲を持つ住民を上手く活用することが有効

緑の維持、増進に係る区民の負担を軽減する支援策が必要である

樹木の引越は大変なお金がかかり、個人の負担では限界がある

区の歳出に占める緑に係る支出が少なすぎる

開発時、緑を残した場合に節約した撤去費用を基金にしているかどうか

循環型都市づくりを目指して家庭ごみの資源化促進が必要

循環型都市を作るという大きな方向性を打ち出すべきである

まず第一にごみに関するルールの徹底から取り組むことが必要

身近なルールも徹底は難しくこうしたことから取り組むことが重要

リサイクルを前提とするなら戸別収集で個人の責任を明確にすべき

緑化にも寄与する家庭の生ごみの堆肥化の推進が重点課題である

緑の再生のため堆肥として生ごみを用いるという方が分かり易い

公園にコンポスターを設置して地域で活用してはどうか。

事業系に比べて一般家庭の生ごみのリサイクルが進んでいない

個人の生ごみを学校で堆肥化して学校緑化に活用してもらおうと良い

ゴミ収集の無駄を省いてその資金をコンポスター普及に活用すべき

個人の手が及ばない分野では行政の戦略的取り組みが必要

取り組みの基礎として区民参加による緑の現状把握が必要である

樹木の状態をしっかりと調査して必要な対策を講じる必要がある。

今はバラバラになされている緑の調査を集約する体制が必要である

取り組みの基礎として、樹木台帳を区民参加で整備することが必要

まとまった緑をどこを重点的に整備するか戦略の明確化が必要

新たな緑の整備は、どこを狙いとするか戦略を明確にすべきである

区内の国有地、都有地にある緑の保護、育成の働きかけも重要

今後は学校跡地の公園化ということも考える必要がある

小学校に畑や水田を作るのが良い

豊島区の中心である池袋駅の緑を増やすべきである

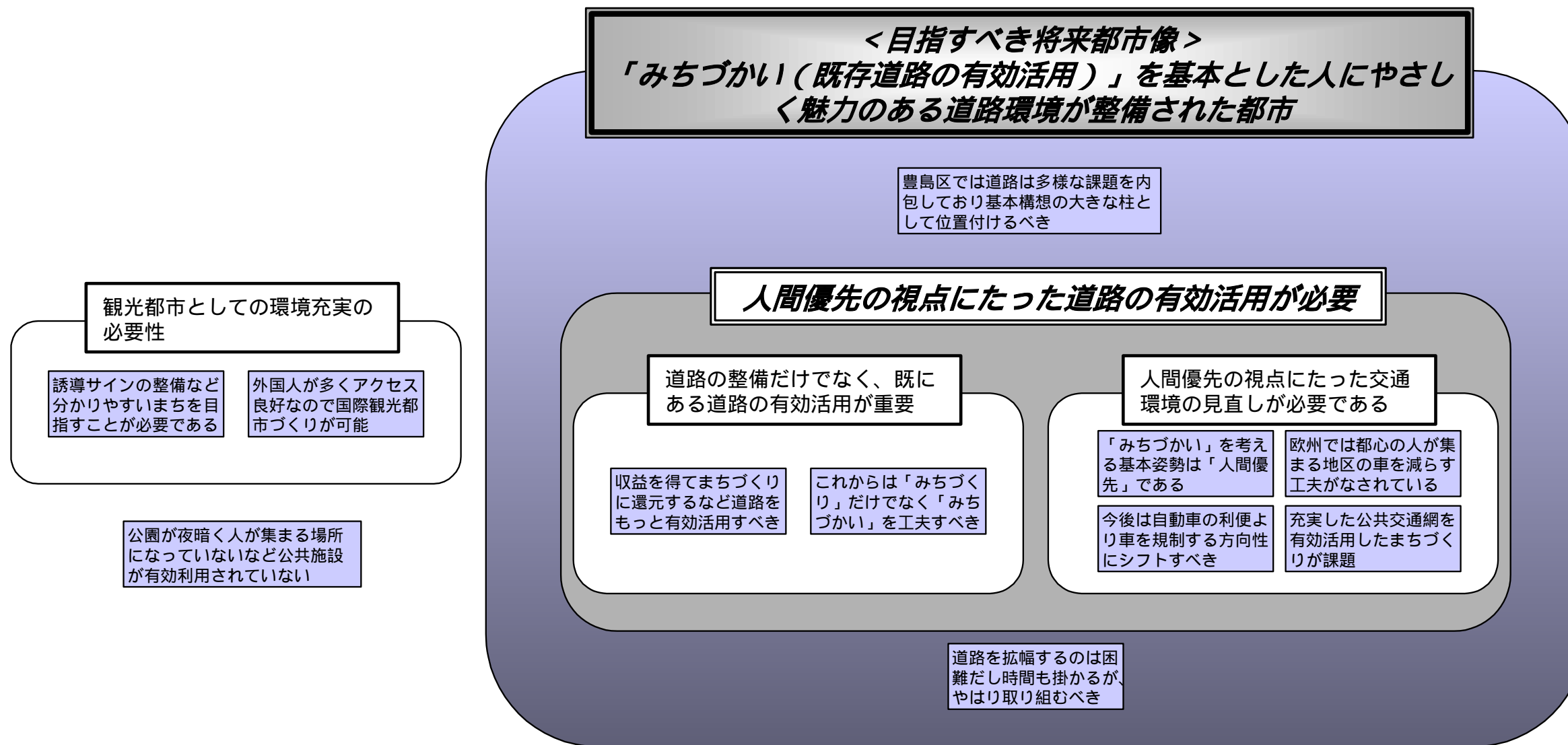
学校を緑の拠点として地域と一体となって整備することが有効

行政主導による身近な緑を増やす取り組みも必要である

やむ終えず木を切った時には区が別途3本植えるというのはいかがでしょうか

学校等公共施設の空調の一助として屋上緑を進めるべき

「まちづくり」の課題に関する論点



「防災」の課題に関する論点

＜目指すべき将来都市像＞
地域コミュニティの防災機能と適切な基盤、環境の整備により
安心してくらすことのできる都市

20年後の豊島のイメージとして「安心できるまち」を盛り込むべき

地域コミュニティの防災機能の向上が必要

区民の防災意識の向上・防災活動の活性化が必要

防災訓練は早朝が多く参加しづらい。こういう点を見直すと良い。

防災活動への参加が限定されており、住民意識を高める必要がある

防災活動への若年層、単身者の参加が少ない

学校における防災教育が重要

若年層の参加に向け中学生への防災教育(普通救命講習等)が必要

住宅地では父親が昼間不在なので中学生への防災教育は重要である。

阪神大震災の経験から地域コミュニティの防災機能が重要である

厳しい時代をいきぬいた高齢者の知恵を生かすことも必要である

地域コミュニティの意識と行政がかみ合っていない

防火水槽の使い方が住民に伝わっていないことが問題である

行政の取り組みと住民の意識とがかみ合っていない

個々人が使える消火設備を整備すべき

マンション自治会単独では消防訓練の為に公園使用許可が下りない

消防署と町会や区の連携がうまくいっていない

大災害に備えた行政の対応と地域住民の対応は分けて考えるべき

地域コミュニティと事業者や学校等との連携が必要

事業者と区や町会との連携による防災体制の構築が必要である。

広域避難場所になっている大学が無断立入禁止で入れない所がある

地域が働きかければ大学等も対応してくれる。地域の主体性が重要。

災害に強い都市基盤の整備が必要

道路が狭隘な地域において防災上不安がある

狭隘な道路の自販機は倒れやすく非常に危険である

南長崎は道路が狭く消防車が入れない地域がたくさんある

昼間人口が多く災害時の帰宅難民についても考える必要がある。

環境だけでなく防災の観点からも緑をもっと増やすべきである

補助172号の都市計画道路は基本計画で防災道路と位置づけべき

国、都の道路整備への関わりについて方針を明確にすべき

災害時の情報通信基盤の確保が必要

行政が災害時の情報伝達手段を確保しておく必要がある

災害時に携帯電話が使えずパニックとなるため通信手段確保が必要

広域避難場所に災害時でも必ずつながる公衆電話等を確保すべき

現基本構想に災害時の情報網確保はないのでこの点は触れるべき

大災害時は携帯電話は使えず、車も動かないことを前提とすべき

災害時の基盤となる情報網の構築が重要である

犯罪の起こりにくい環境整備が必要

防犯対策の重要性が増大している

昔から比べると犯罪が増えており、また凶悪化している

道路の安全性や街の風紀など子供を育てられる環境ではない

池袋の治安に不安がある

サンシャイン通りが治安面で不安があり、区として対策はないのか

課題が大きいのは池袋であり、区役所に池袋課というのを設けては

犯罪の起こりにくい市街地環境やコミュニティの機能強化が重要

犯罪者が犯行に及びにくいまちづくりを進めることは必要

区としては犯罪が起こりにくい環境整備に取り組むべき

防犯にはマンションでの近所づきあいを密にする働きかけも有効

防犯上は街灯も必要であるが、星が見たいという思いもある

「区民等が主体のまちづくり」の課題に関する論点

<目指すべき将来都市像>
 区民等が意志決定に参加し、区民等の参加と分担・連携により、
 試行錯誤しつつ着実に実行するまちづくりの仕組みが確立された都市

区民等が主体のまちづくりへの転換が必要

分権等の動きは区民主
 体のまちづくりに転換
 するチャンス

提案するだけでなく、
 区民自らが実行してい
 くことが大切

区が何かやってくれる
 のを待つのではなく区
 民が主体的に取り組む

地方分権にあわせて区
 民への分権を進めるべ
 き

区民等の意志決定への参加とその 実行を担保する仕組みが必要

地域住民が目標を共有
 し課題に対し合意形成
 する議論の場が必要

住民参加による意志決定の実
 行を担保する仕組みが必要

実際の行政への提言の
 反映状況を公開する制
 度が必要である

行政は人が変わるので
 取り組み継続には地域
 の仕組み確立が必要

区民からの提案の実現
 を担保する仕組みが必
 要である

提案されたアイデア
 をためておいて後で活
 用する仕組みが必要

まちづくりの意志決定に住民が
 参加する仕組みが必要である

住民がまちづくりの意
 思決定に参加すること
 が必要

一方的に意見を言うの
 ではなく一緒に考えよ
 うという姿勢が重要

行政は縦割の弊害を無
 くし、区民の提案に対
 し柔軟に対応すべき

財政制約をふまえたまちづくり
 の在り方を検討する必要がある

分権や財政など制約を
 把握した上で課題につ
 いて議論すべき

区財政が逼迫し、それ
 により行政サービスも
 低下している

豊島区は特徴が見えに
 くい。豊島らしさをう
 ちだしていくべき

外国人が増えており、
 不安もあるが、共存を
 考えるべき

連携と分担により区民等がま ちづくりを担う仕組みが必要

地域とボランティア団体や団
 体間の連携が必要

団体同志や団体と地域
 の人が話し合う場が必
 要

地域とボランティア団
 体が連携して活動する
 状況になっていない

ボランティア団体は、
 個々の思い入れがあり、
 統一した活動が難しい

住民がまちづくりに係る様々な活動
 を担っていく仕組みづくりが必要

区民と区が協定を結ん
 で役割を分担してまち
 づくりができるという

区民が実行し、区はそ
 れを支援するという仕
 組みが必要

住民がまちづくりに参
 加する仕組みが重要で
 ある

町会を基礎としたまち
 づくり

リタイヤしたサラリー
 マンを人材として有効
 活用する仕組みが必要

区民だけでなく事業者
 も参加する仕組みが必
 要

できることから試行錯誤しつ つ具体的に進めることが重要

提案を実験的に試行する仕組みによる
 柔軟性の高いまちづくりが可能となる

みんなで話し合い、試
 行錯誤することを保証
 する計画にすべき

提案を実験的に試行し、
 上手く行けば普及する
 仕組みの構築が必要

最近公園や道路の整
 備において社会実験が
 行われている

学校を核とした地域住民主体
 のまちづくりが有効である

中学校を核として地域
 について学び活動する
 仕組みが必要である

住民参加には中学生が
 重要な役割を負ってい
 る

中学校を核とした活動
 の促進には、コーディネ
 ーターの役割が重要

学校の総合学習とまち
 づくりが連携した、コ
 ミュニティ教育が重要

例えば学校屋上緑化を
 地域と学校の連携で取
 り組むシステムなど

基本構想審議会への提言

1. 提言の背景（課題認識）

「生活」に係る課題

意欲ある人材を活用した地区間・世代間の交流の活性化
地区間のバランスが取れた活気づくり

世界有数の人口過密地域である東京の中心に位置する豊島区は、交通や情報の発達により生活圏が連続するなど周辺地域との結び付きが強まっているために、かえって「豊島区」という単位での地域社会に対する区民の思い入れは低下しつつあり、区民の愛着や帰属意識の向上が求められる。区内各地区においても、高齢化や人口の入れ替わりの進行に伴い、コミュニティの活力や区民どうしの結束力の希薄化が懸念されており、区民レベルの人的交流の活性化が必要と考えられる。

また、豊島区は池袋という都内屈指の商業集積を有しているが、住宅地が広がる区内他地域において商業を中心に産業活力が低下するなど、産業面における地域間格差への対応が求められる。

「文化」に係る課題

豊島区民としての自覚・誇りが持てる象徴の形成
文化行政の成果や庶民文化の土壌を活かした独自文化の形成

これまで豊島区は、「豊島区演劇祭」をはじめ、他区に先んじて意欲的に文化行政への取り組みを進めてきたが、区民が芸術文化活動や鑑賞を思い通り楽しむという観点から見ると、環境整備はまだ不十分である。

また、豊島区は、雑司が谷霊園やソメイヨシノをはじめ、豊富な歴史的文化的資源を有しているほか、「ラーメン文化発祥の地」と称されるなど庶民文化としての成熟度も高い土地である。しかし、その一方で、豊島区には「豊島」を端的に表現できるようなランドマークや生活様式といった物的・心的な象徴がないと考えられる。今後は、区民はもとより、区外にも豊島区の独自文化を感じてもらえる都市としての固有の型を形成することが必要である。

「教育」に係る課題

魅力ある学校教育環境の充実

地域資源との連携を視野に入れた生涯学習・スポーツ環境の整備

これまで豊島区では、学校教育について独自の方針を打ち出しているが、他地域と比較して急速に進む少子化に伴い、学校教育を取り巻く環境が激変するなかで、地域特性を活かした魅力ある学校教育の環境の充実が求められる。また、人口過密地域としての都市特性から、地域で子どもが発育する環境や大人が気軽に運動できる環境が不足しており、学校跡地利用をはじめ既存公共施設の利活用も含めた対応が必要である。

また、平日昼間は区外で暮らすサラリーマンを中心に、行動時間の制約から、学習意欲を十分に満たすことができない区民が依然として多い。区民誰もが生涯にわたり学び続けることができる環境の充実が必要である。

「まちづくりの進め方」に係る課題

まちづくりの主体のあり方の見直し

政策デザインの手法の見直し

わが国が右肩上がりの経済成長を謳歌する中で、豊島区に限らず、自治体サービスは、公平性・客観性といった価値観にもとづいて数十年にわたり安定して提供されてきた。

このように一定水準のサービスが充足し、区民の暮らしは守られてきたが、今後はバブル崩壊を経た成熟社会への移行や少子高齢化の進展、価値観の多様化といった社会経済環境の変化に対応したまちづくりが重要である。区民との効果的な連携の仕組みづくり、政策デザイン手法の改善など、まちづくりの進め方そのものを見直す必要がある。

2. 豊島区が目指すべき将来都市像とまちづくりの方向性

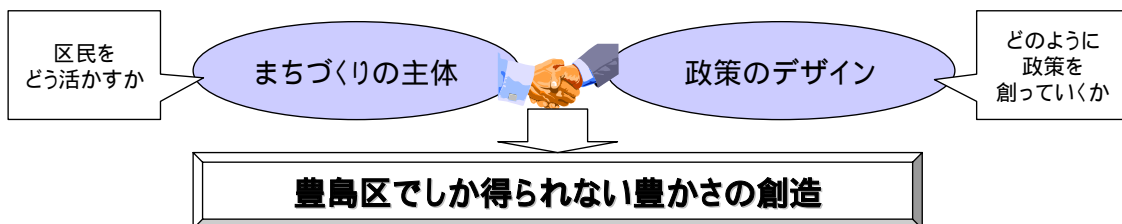
「地域の温もり、自分のリズムを感じながら、一人ひとりが仲間とともに笑って暮らせるまち・豊島」

私たちが過ごしてきた 20 世紀の後半期は、「成長至上主義」「競争主義」といった表現で形容されるように、いわばフル・スピードで駆け抜けることが是とされた半世紀であった。しかし、実現した物質的な豊かさと引き替えに、人やコミュニティの結びつき、暮らしにおける地域社会の存在意義は弱くなりつつある。また、産業活力の低下、少子高齢化、人口減少が進行する一方で、私たち一人ひとりの価値観や嗜好が多様化するなかで、いま私たち区民はこれまでの一律の豊かさとは異なる「身の丈にあった手作りの豊かさ」を求めている。私たちは、これからのまちづくりは、こうした価値の転換を踏まえることが重要である考え、「生活」「文化」「教育」というテーマの根底に流れる新たなまちづくりの基本理念として将来都市像を提言する。

一人ひとりが好みのペースで自分の個性を伸ばす。一人ひとりが地域の人・モノ・環境

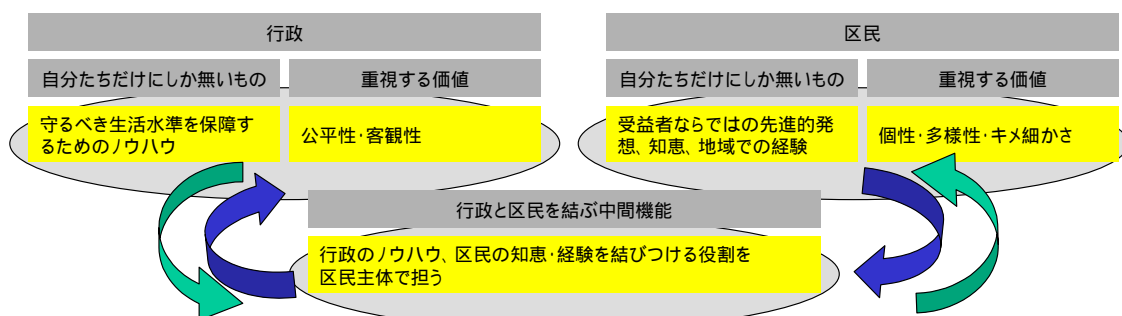
に触れ合いながら、互いを育み、尊重する。参加や協働の枠を超えた新たな行政と区民の連携を促す多様な「共」の場の創造や「ネットワーク化」「複合化」といったキーワードによる政策づくりなど、まちづくりの進め方そのものの転換を図りながら、多様な生き方を選択でき、多様な生き方を尊重し合える「これぞ豊島区」といえるような暮らしのスタイルの発掘や創造を実現できる都市が私たちの理想である。

これからのまちづくりの視点



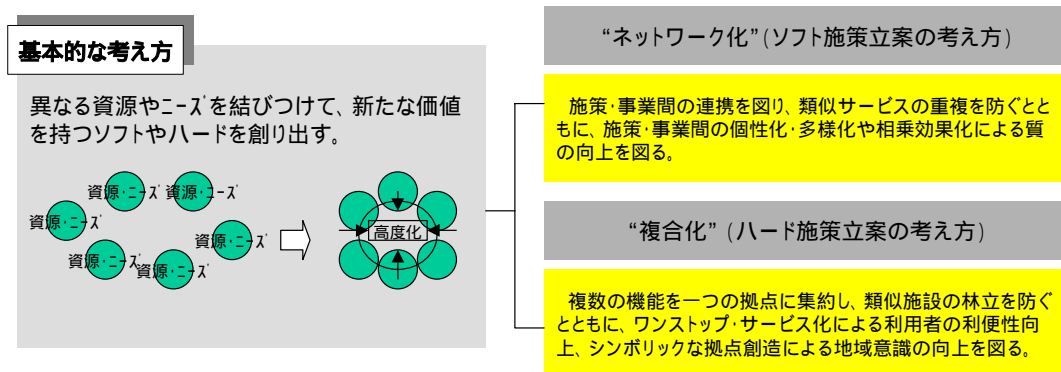
資料)「区民ワークショップ(第3分野)区民提案書」6ページ。

まちづくり主体の考え方



資料)「区民ワークショップ(第3分野)区民提案書」7ページ。

政策デザインの考え方



資料)「区民ワークショップ(第3分野)区民提案書」8ページ。

< 「生活」のまちづくりの方向性 >

- * 世代や経歴を越えて思い立ったその日から気軽に社会参加できる、人々の善意が流通するコミュニティを形成する
- * 若者のエネルギーをまちの活気につなげる環境を整備する
- * 高齢者・外国人の知恵や経験を生かす仕組みを構築する / 等

< 「文化」のまちづくりの方向性 >

- * 演劇都市として成果を上げつつある区の芸術文化政策を今後も増強する
- * 区民のための大広場など、豊島区民としての拠り所を創造する
- * 次々と自然発生的にわき上がる豊島ならではの独自の庶民文化をまちづくりに活用する / 等

< 「教育」まちづくりの方向性 >

- * 地元の資源を活用した体験型学習を重視する（例：地域の達人・高齢者・外国人との交流、演劇を取り込んだ情操教育）
- * 「私」を重んじつつも「公」の大切さを身につけ、「共」（仲間づくり）を創造する学校教育を実践する
- * 子供からお年寄りまですべての区民が知的満足を得られる「生涯一貫教育」の仕組み、自由に運動を楽しめる総合スポーツ環境の充実 / 等

「生活」「文化」「教育」のまちづくりの方向性は、相互に横断的連携を図ることを前提とする。

私たちが考える豊島区の現状と理想（その1）

まず、私たちは、個性豊かな豊島区を実現するために、現状分析として「いま問題と感じていること」「豊島区について良いと評価できること」について、自分たちの理想として「10年後までに実現したらよいと思うこと」について思っていることを出しました。

(1) いま問題と感じていること

文化施設への支援不足

オーソドックスな演劇に適した劇場の不足

舞台芸術の基盤というべき区内稽古場の不足

豊島区及び民間による舞台芸術への支援金の少なさ

スポーツ施設の老朽化、バリアフリーへの対応

スポーツ施設の予約検索システムなど導入

働いていると図書館に行けない

若者文化を吸収できる環境の不足(ロック系コンサートなどができる会場がない)

住民の多様化、連帯感の希薄化

他区との境界が実感しにくく、区民意識が持ちにくい

地域活動が高齢者中心になりがち

マンション的感覚の住人が増え、コミュニティとしての連帯感がない

外国人や地方出身者が多いため、ふるさとを実感できない

外国人が多く住んでいて犯罪が多発し、教育上よくない

区内産業、教育機関、豊島区の協力関係の構築

歴史的文化的衰退、特色の欠如

街としてのインパクトが弱い(多くの来街者は駅前だけで行き完結し、街を回遊しない)

歴史的な場所や建物のPR不足

全国的に有名で誇れるものがない

住環境の悪さ

風俗、客引き、放置自転車によるイメージダウン

駐輪場が不足

道路が狭い(防災の観点から)

自然や緑が少ない

子どもが安全に遊べる場所が少ない

住環境地域の人的リソース、物的リソースを活用できていない

高齢者雇用、活動の場の欠如

学校開放に供する小中学校の体育館は、大人の利用も視野に入れ大きめにする

高齢者が持っている能力を活かすネットワークがない

学校週5日制のメリット・デメリットはどうなっているのか

小中学校の統廃合による跡地利用、学校利用

(2) 豊島区の良いところ

地域の連携による地域文化の創造

区長を中心に豊島区を盛り立ててゆこうという熱意が伝わってくる

祭り、スポーツなどに対し、小さなグループの活動は質量ともに活発

街づくりに学生の意見をとりいれること

大学サミットの開催、テーマを変えて毎年継続してほしい

地域文化の発展を目指していること

第1回池袋演劇祭から、14年間支援していること

豊島区舞台芸術振興会における、行政、民間、現場の協力体制

豊島区舞台芸術振興会の活動における事務局(コミュニティ振興公社)の献身的な協力と民間等のボランティア活動

利便性、変革の可能性

交通の便の良さ

家賃の安さ

庶民的文化の成熟度が高く何か生まれそうな土壌である

職住接近している(商売人が多いので祭りなどが盛り上がる)

高齢者が多い

三世大家族が多く、高齢化社会の良い意味での先進事例が多い

金が無さそうなので、変革が比較的容易

目白、池袋、巣鴨、駒込駅では複数線利用でき、便利

駅前の都道を区道にしたこと

歴史と伝統

ラーメン屋が多い(文化の発祥点)

区花(染井よしの桜)発祥の地

歴史、文化財がある

寺や墓が多いこと(染井霊園、雑司が谷霊園 - 東京の二大霊園)

雑司ヶ谷霊園など近隣に大きな緑があり、買い物(商業地)がしやすい。住宅地、史跡等もあり偏っていない

文化施設の充実

大型書店が多く、本の街としてのイメージが高まっている

池袋を中心とした商業地にデパートや映画館などが集積されている

商業地のすぐ近くに環境のよい住宅エリアがある

スポーツ指導員がしっかり付き、料金も安く、良質なサービスが受けられる

スポーツ施設が徒歩や自転車でいける距離にある

私たちが考える豊島区の現状と理想（その2）

(3) 10年後までに実現したらよいと思うこと

区独自のシステムの構築

| | |
|-------------------------------|------------------|
| 非経済行為にも価値を認める善意評価による「地域通貨」の確立 | 高齢者のための区内循環バスの運行 |
| 街が一望できる展望タワー | 区民の地域マネー（エコマネー） |
| 豊島区内（駒込～目白）姉妹駅考 | |

区の総合的イメージアップ

| |
|--------------------------------|
| 駅前の金融機関を移転させて、丸の内、汐留、秋葉原に次ぐ再開発 |
|--------------------------------|

文化施設の充実

| | |
|---|-------------------------------|
| 学生受入環境整備（学生の住みやすい学生寮などが多くできたらいい） | 豊島区の中心に誰もが認める千人くらい集まれる場所が欲しい |
| 生活のしやすさと文化の融合 | 巣鴨の都営バスの土地に人がたくさん集まる施設ができればいい |
| 子ども、高齢者、障害者が好きな時間に好きな種目が楽しめるスポーツ施設ができればいい | 安心して運動ができる施設の充実 |
| 舞台芸術の基盤というべき区内稽古場及び劇場の設置、設立 | 調べものが自由にできる図書館機能の充実 |

ワークショップ分野別開催経過等

| 分野 | 第一分野 (福祉・健康・子ども家庭) | 第二分野 (環境・防災・街づくり) | 第三分野 (生活・文化・教育) |
|-------------------------------|--|--|---|
| 第1回 全体会 終了後第1回 分野別討議 | 10月7日(月) 生活産業プラザ地下1階 18:30～20:30 【分野別討議内容】 (1)今後の進め方 (2)次回以降のスケジュール | | |
| 第2回 | 10月16日(水) 本庁舎4階第7会議室 18:30～21:00 【討議内容】 10年後、20年後の豊島区 のあって欲しい姿 | 10月16日(水) 分庁舎B館3階第10会議室 18:30～21:00 【討議内容】 (1)防災・環境の分野で 課題整理 | 10月16日(水) 本庁舎地下第4会議室 19:00～21:45 【討議内容】 (1)豊島区の良い点 (2)豊島区の問題点 (3)10年後の理想像 |
| 第3回 | 10月30日(水) 本庁舎4階第7会議室 18:30～21:00 【討議内容】 問題、課題の整理 | 10月31日(木) 分庁舎B館3階第10会議室 18:30～ 【討議内容】 (1)環境の分野で課題整理 | 10月25日(金) 本庁舎地下第4会議室 19:00～ 【ミニレクチャー】 今日の教育と地域 【討議内容】 分野を超えた新しい考え方 |
| 第4回 | 11月6日(水) 本庁舎4階第7会議室 18:30～20:45 【討議内容】 区民ができることへの意見 | 11月11日(月) 分庁舎B館3階第10会議室 18:30～ 【討議内容】 (1)清掃の分野で課題整理 (2)安全の視点からのまちづ くりの課題整理 | 11月14日(木) 本庁舎地下第3会議室 19:00～ 【ミニレクチャー】 まちづくりの視点 【討議内容】 分野を超えた新しい考え方 |
| 第5回 | 11月20日(水) 本庁舎4階第7会議室 18:30～21:00 【討議内容】 課題の整理、将来像、区 民ができることのとりまとめ | 11月18日(月) 分庁舎B館3階第10会議室 18:30～ 【討議内容】 (1)区民提言書の柱立てに ついて整理 なお、11月25日に別途調整 を行なった。 | 11月27日(水) 本庁舎地下第4会議室 19:00～ 【討議内容】 将来都市像について |
| 第2回 全体会 | 11月28日(木) 生活産業プラザ地下1階 18:30～ 【討議内容】 各ワークショップからの提案発表 | | |

ワークショップ分野別開催経過等

| 分野 | 第一分野 (福祉・健康・子ども家庭) | 第二分野 (環境・防災・街づくり) | 第三分野 (生活・文化・教育) |
|-------------|-----------------------------------|--|-----------------------------------|
| 第6回 (予定) | 12月11日(水) 本庁舎4階第7会議室 18:30～ | 12月19日(木) 分庁舎B館3階第10会議室 18:30～ | 12月18日(水) 本庁舎地下第4会議室 19:00～ |
| 第7回 (予定) | | 平成15年1月10日(金) 分庁舎B館3階第10会議室 18:30～ | |